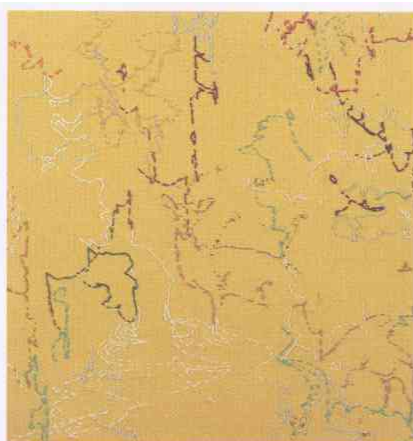


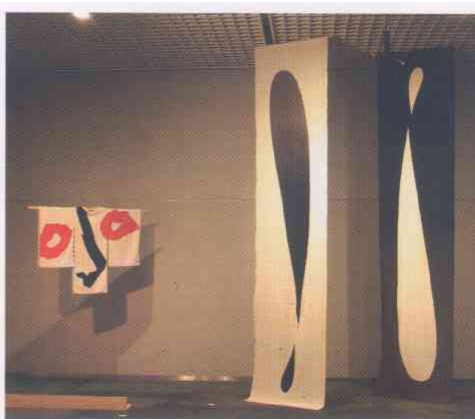
布をめぐる旅

— 込められた物語・歴史・表現

2008年2月9日(土)〜3月23日(日)



伊藤存《森》(部分)2006年 布に刺繍 国立国際美術館蔵



大川原誠人《!》と《舞》2007年 インドクロス(綿)、反応染料、顔料

いつの時代も、私たち人間と共に歴史を紡いできた布。現代では機能以上に自己表現のメディアとして、さまざまに使用されています。本展では、香川にゆかりのある作家や布をめぐる最近の作家たちの仕事を取り上げ、作品に織り込まれた表現を幅広く紹介します。

高松藩初代藩主・松平頼重に保護された「保多織」。現在では岩部卓雄に伝え守られ、森田真由美(造形作家)とのコラボレーションにより、生活の中に柔らかな手触りを呼び覚ました。同じく江戸時代、高松城下の染物屋を中心に作られた「讃岐のり染」。これを受け継ぐ大川原誠人(染色家)は斬新なテキスタイル(織物)アートを発表しています。

また、外への旅から独特の世界を生み出した香川出身の鎌倉芳太郎(染色家)と秦泉寺由子(キルト作家)の二人。沖縄に魅せられた紅型研究者として知られる鎌倉は、晩年自ら作品を世に問い、重要無形文化財「型絵染」保持者(人間国宝)に認定されました。一方の秦泉寺は、カナダでキルトに出会った後、植物染料の豊富なインドネシア・バリ島にも工房を持ち、青竹から白を染めあげる仕事へと向かいました。

そして、最近では、従来の布の概念やジャンルを超えて、美術やファッション、デザインなどの分野において活発に制作活動を展開する新しい世代が目立っています。今回の展示では、ASYMMEDLEY a.k.a 和泉希洋志デザインによるT-シャツ、伊藤存(美術家)の刺繍で作られた作品やスケッチ、さとうゆき(布作家)のバッグへと変容する布、杉山優子(造形作家)の植物のように生命感あふれる布オブジェ、平野薫(美術家)の解体される布の物語、村山留里子(美術家)の増殖する色絹布を紹介します。そして、それぞれの布をめぐる小旅行や遠い旅へと一緒に出かけたいと思います。また、当館の布資料や施設で制作された「さをり織」を併せてお楽しみください。

関連イベント

ワークショップ「寄り道する布えほん」

ダンボールをベースに、布があちこちに寄り道する絵本を作ってみよう！  
日時：2月9日(土)午後1時30分〜4時 会場：サンクリスタル高松3F第1集会室  
講師：杉山優子 定員：20名(事前申込)  
対象：子どもから大人まで

対談アーティストトークvol.1

秦泉寺由子×大川原誠人  
日時：2月24日(日)午後1時30分〜  
場所：サンクリスタル高松3F視聴覚ホール  
聴講無料(先着200名)

対談アーティストトークvol.2

和泉希洋志×伊藤存  
日時：3月16日(日)午後1時30分〜  
場所：サンクリスタル高松3F視聴覚ホール  
聴講無料(先着200名)

ギャラリートーク

2月17日(日)午後2時〜  
担当学芸員/特別展示室/観覧券必要

交通のご案内

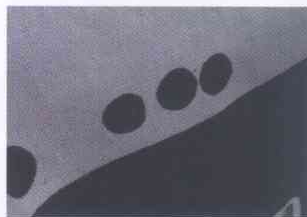
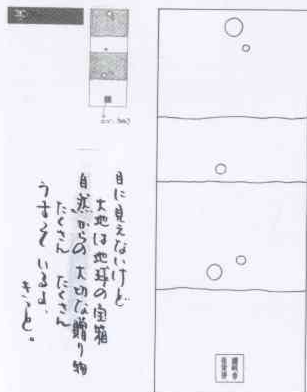


高松市歴史資料館

高松市昭和町一丁目2-20  
(サンクリスタル高松4階)  
Tel.087-861-4520  
<http://www.city.takamatsukagawa.jp/643.html>



村山留里子《Untitled》(部分)2001年 絹、化学染料 ユミコチバアソシエイツ蔵  
Courtesy: Yumiko Chiba Associates / YAMAMOTO GENDAI



森田真由美+岩部卓雄  
(保多織手ぬい)2005年 木綿



鎌倉芳太郎《型絵染山水文上布長着》1975年  
香川県文化会館蔵 photo:高橋章



平野薫《untitled-skirt》(部分)2006年 スカート photo:友枝望



杉山優子《犬に聞け》(部分)2006年 ギャラリーなつか「オフィス展」より